

マクロン、半自動銃をもつ警察を丸腰のイエロー・ベストに 差し向ける

フランス大統領がパリの通りで、“反テロリスト” 攻撃用武器を反乱警察にもた
せる

【訳者注】今、フランスで起こって世界に拡大しつつある「イエロー・ベスト」運動の本質は、世界の人民がごっそり騙されていたことに気づき、「大覚醒」を起こすような、彼らの言う「無期限の」運動であって、我々の知っている左翼や右翼の運動とは違うものである。これを実弾で抑え込もうとする、マクロン大統領や、元教育相で哲学者だというリュック・フェリー氏は、歴史の動向が何もわかっていない愚か者を演じている。彼らはあたかも、行きがかり上、仕方なく、与えられた役を演じているようにみえる。そして、そういう人たちが、今、政治家やマスメディアの間にあふれている。そういう人たちは、自分の役を意識してやっているのであろう。そうでなければ本物の馬鹿である。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

January 14, 2019



フランスの機動隊が、テロリスト攻撃用ライフルを与えられ、イエロー・ベスト鎮圧のために配置される

フランス大統領エマヌエル・マクロンは、“テロリスト用の”の半自動ライフルで武装された機動隊を配備している。これは実弾を使って、フランスの道路上にあふれる「イエロー・ベス

ト」抗議者を鎮圧するためである。

日曜日、機動隊が、マクロンの法と秩序の危機が、統制不能に陥るにつれて、フランスの凱旋門近くを、致命的な武器を振り回している現場が撮影されている。

反テロ警察は、土曜日午後、マクロン大統領のグローバリスト政策に対する、フランス市民の武器を持たないデモンストレーションの折に、すでに凱旋門近くで、Heckler & Koch G36 攻撃ライフルを所持してパトロールしていた。

この動きが起こったのは、フランスの前教育相 Luc Ferry の発言以来のことで、彼は、イエロー・ベスト運動の中の「殺し屋」に対しては、警察は、実弾を使って射殺する戦術を用いるべきだと言い、彼らを殺せば「暴力に終止符を打つ」ことになると主張した。

<https://neonnettle.com/news/6143-french-minister-calls-on-police-to-shoot-and-kill-yellow-vest-protesters>

機動隊は週末にパリの大通りに現れたが、これは「ジレ・ジョーヌ」すなわち目立つ色である黄色のベストを着た者たちを、弾圧するのが目的だった。

5,000 人の警官がパリの大通りに配備され、30 個の実弾カートリッジを携えて警備したが、それが使用されたという報告はない。

イエロー・ベストの抗議集団 Gilles Caron は、この動きを「嫌なこと」と評しながらも、「銃をもった国家警察は、暴動鎮圧のためのヘルメットと防弾チョッキを着ていたが、彼らは、特別に火器の訓練を受けた部隊ではなかった」と言った。

「彼らの仕事は、致命的な武器をもって我々を脅かすだけで、やり方が大げさだった。」

「これはちゃんと説明する義務がある。」



デイリー・メールによると、フランス国家警察は厳しい政策を取ることで知られており、しばしば、筒の開いた銃を用いて、閃光のような散弾や催涙弾を発射するという。

<https://www.dailymail.co.uk/news/article-6586991/French-riot-police-using-semi-automatic-weapons-against-Yellow-Vest-protestors.html>

しかしこれまでのところ、用いられた銃は主に、軍事専門家部隊、エリート GIPN 警察介入部隊、それに BAC 犯罪取り締まり大隊に関係するものである。

あるフランス国家警察スポークスマンは、国家警察は、土曜日には、H&K G36 を装備していたことは認めたが、「安全保障上の理由で」使用したかどうかについては論じなかった。

12月1日には、同じような凱旋門近くでの、イエロー・ベスト・デモの折、警察のライトバンから1挺のA36が盗まれた。

パリ行政区の第21介入集団に属する多くの自動車が、そのとき襲撃され、盗難はその時のもので、凱旋門そのものが荒れた、激しい暴力の最中に起こったと思われる。

同じような抗議運動が、この週末、世界中で起こっており、イギリスのロンドンでも、大きなイエロー・ベスト抗議が行われた。<https://www.standard.co.uk/news/london/yellow-vest-protests-in-london-antiausterity-activists-and-probrexit-demonstrators-march-on-streets-a4037151.html>

デモ隊が、ロンドン中央部と英国全体に、反緊縮財政と(無条件) Brexit 推進を掲げて集合した。これは総選挙を求めている「緊縮財政に反対する人民集会」の組織したものである。



先週、2000年代初めにフランスの教育相だったリュック・フェリー氏が、イエロー・ベストによる一連の警察への攻撃に対し、実弾による反撃を要求した。

現在、哲学者として生活しているフェリー氏は、「私に理解できないことは、この暴力に終止符を打つ手段を、我々が警察に与えないことだ」と言った。

銃は、負傷とか、もっと悪い事態に導くかもしれないという意見に対し、フェリー氏はこう言った：——

「それがどうしたというのだ？ 虚心に聞くがよい。あの者たちが床に倒れた不幸な警官を、滅多打ちにしているのを見たとき、その時こそ、彼らに対して武器を使い、これきりこういうことがないようにすべき時なのだ！

「それで十分だ。」

パリを含めたフランス中の主要都市で、土曜日、警官隊が、イエロー・ベストによる「怒りの日」の運動の間、ずっと張り付いていた。彼らは社会的、政治的、経済的改革を、無期限に求めて自分たちの運動を続けると誓っている。

マクロン氏の政府は、彼らのやり方に弾圧を加えており、彼らを抑えこむ、新しい抗議運動防止法を約束している。

——以上